

国語

出題の傾向

昨年度と同じく、①～③の大問3つの出題となりました。①の現代文は例年通り、評論文から漢字・語句の意味・品詞の識別・指示語・内容把握などを出題しました。また、昨年度から新たに追加された「思考力・判断力・表現力」を問う形式の問題を、本年度も②で出題しました。③の古文は、随筆や説話などから、語句の意味・内容把握などを、これも例年通り語注や現代語訳で補助をして出題しました。各問題の配点は、現代文50点、新しい学力観に基づく問題25点、古文25点となっています。では、以下に本年度の入試について詳しく解説していきます。

2020 今年度出題と解説

①の現代文は、『聞く力を鍛える』（伊藤進）からの出題でした。本文の内容は、正確な読解力が必要な箇所もあるとはいえ、全体的には読みやすい文章であると思います。また、設問自体もこれまでと同じ傾向で出題していますので、しっかりと練習を積んだ受験生にとっては、スムーズに取り組める問題だと思います。

問1 漢字の問題

中学校までに学習した漢字の書き・読みから出題していますので、学校の授業などで漢字の学習をしっかりとして下さい。今年の出題については、あ「娯楽」は、「ごんべん」の間違い、また、お「極端」については、「端」の字の「而」をきっちり書けていない解答が多く見られました。日頃の勉強から、正確に書く学習を心がけて下さい。また、漢字を読み書きする力は、問題集などで鍛えることももちろん大切ですが、読書や新聞、携帯配信のニュースなど、日常生活の中で活字を読むことで鍛えられる場面も非常に多いです。日頃から、意識的に言葉に触れる機会を増やして下さい。

問2 国文法の問題（品詞の識別）

本校で毎年必ず出題される問題だけに、きっちりと対策を立てて勉強してほしいと思います。この問題は、毎年、きちんと対策してきた生徒とそうでない生徒の差が大きく表れます。aは、状態を示す語であり、終止形に戻すと「特殊だ」と「だ」で終わりますから、ウ 形容動詞 が正解です。bは、「逃す」という動詞の下にあり、「～しないぞ!（打消意志）」という意味を付け加えているので、ケ 助動詞 が正解です。cは、「反対」という名詞を修飾しているため、カ 連体詞 が正解となります。なお、「こそあど言葉」の「の」で終わる言葉（この・その・あの・どの）は連体詞、と覚えておくと便利です。dは、「ある」に対しての「ない」という状態を示す語であり、「い」で終わっているためイ 形容詞 が正解です。ちなみに、動詞の下にあり、「～ない」を「～ぬ」と言い換えられる場合（例：書かない→書かぬ）は、助動詞となりますので、見分けられるようにしましょう。eは、「必要とする」という動詞を修飾している語なので、オ 副詞 が正解となります。なお、それぞれの見分け方のコツについては、本校のオープンキャンパスで、対策授業を行っています。苦手な人は、ぜひ参加して克服して下さい!

問3 空欄補充の問題（選択）

語彙力と文脈把握の力を試す問題です。この問題を解くには、まず四字熟語の意味を理解し、次に周りの文から解くためのヒントを得ることが重要です。[X]は、「老若男女（世代や性別を問わない全ての人）」が「森羅万象（この世に存在するあらゆる物や事象）」が入りますが、空欄の後に、「誰でも」という言葉があるので、「老若男女」を選ぶことができます。また、[Z]は、「一喜一憂（少しい状況変化の度に喜んだり不安になったり、状況に振り回される様子）」が「虎視眈々（相手のすきを狙って、機会をうかがう様子）」が入りますが、これも空欄の後の「ねらっている」から、「虎視眈々」が正しいと分かります。よって、エ が正解となります。

問4 空欄補充の問題（抜き出し）

問と同じく、周りの文から解くためのヒントを得ましょう。まず、[Y]の前にある「この」に着目します。この指示内容は、前段落にある「人前で歌う歌でありながら、聞く人がほとんどあるいは誰もいないというカラオケの特殊な状況」であると分かれます。あとは、それを六字で示している言葉を本文中から探すだけです。そうすると、次のページにある「カラオケ現象」が条件に合致する言葉であると分かります。さらに、別解として同じページにある「聞き手の不在」も条件に合致するので正解です。

問5 内容把握の問題（抜き出し）

まず、設問が何を求めているかをチェックします。「コミュニケーションの質を維持するための方法」ですね。さらに、「二十九字」「最初と最後の五字」という条件設定もあるので、しっかりと確認しましょう。さて、後は条件に合う箇所を本文中から探すだけです。2ページの13行目に「コミュニケーションの質が保たれる」という表現があります。これが「コミュニケーションの質を維持する」と同意であることが分ければ、その前にある「参加者相互〜ちんと行う（二十九字）」が条件に一致する解答であると分かります。

問6 語句の意味を答える問題（選択）

常に言葉に触れる機会を増やすことが大切です。本やニュース、新聞などでわからない言葉があった時、すぐに言葉の意味を調べたり、聞いたりして「語彙力」を増やすことで、こういう問題に対応する力が身につけていきます。国語の基礎となる力でもありますが、日頃から、言葉に敏感になっておく姿勢を養っておきましょう。また、文の流れからどんなイメージの語かを確認することも重要です。例えば、⑥は傍線部の前にある「目が虚ろになったり」をヒントとして、選択肢をしぼることができます。

問7 内容把握の問題（記述）

傍線部の周りの文脈を読み取ることができるかを試す問題でした。設問の要求は、「とんでもない誤解」があることについて、実際はどうか（誤解を取りのぞいて考えたと、真実はどうか）を答えることなのですが、同時に、解答にあたる部分をまとめ、空欄に合う形で答える必要もあります。まず、「とんでもない誤解」の内容は、「これ」の指示内容でもある、「聞くことは誰にだって出来るから、『聞き下手』という言い方は必要ないという誤解（これを誤解Aとします。）」ということですので、実際はどうかなのか。傍線部の後に、「聞くことにも、話すことと同様にさまざまなレベルがある（これを真実とします。）」と書かれています。さらに、この「誤解A」が生じるのは、「聞くということは特別の努力を要しない受動的行為であるという誤解（これを誤解Bとします。）」が根底にあるからだと言われています。置き換えた言葉でまとめると、この傍線部の周りの文脈は、「『誤解B』のせいで『誤解A』が生じているが、実際は『真実』。」と読み取れます。ここまですら正確にできれば、それぞれの空欄にあてはまる言葉が自然に浮かび上がってくるはずですよ。

問8 指示内容把握の問題（記述）

指示内容を答えるだけでなく、素直に考えれば比較的平易な記述問題ですが、周りの文脈をしっかり考えないとつかりミスをしてしまうので注意しましょう。傍線部④にあるように、本人たちは「そのこと」を自覚していないのだから、前後の文をしっかり確認すれば、解答は「（自分が）聞き下手であること」と気付くはずですよ。しかし、せっかく「聞き下手」に着目できたのに、文脈を見ずに解答したと思われる「聞き下手は確実に存在している」「聞くのが下手だということがあるということそのもの」という誤答が散見されました。これが指示内容では、前後の文の意味がおかしくなっています。丁寧に解くことを心がけて下さい。

問9 内容把握の問題（選択）

傍線部⑤は、P4の8行目「聞けない人たちが」にあたる人たちのことです。本文内では、「例1」「相手かまわず、一方的にしゃべりまくる人たち」「例2」「相手かまわずでもないが、相手が少しでも聞く姿勢を見せると、延々としゃべりまくるという人たち」という2種類の人たちが例として示されています。これが傍線部⑤に示された人であると読み取ることができれば、解答はそれほど難しくないと考えられます。《例1》にあたる イ が正解になります。

②の問題は、昨年度から導入された「新傾向問題」です。この問題は、複数の資料から設問に必要な情報を選び、取り出して、適切な解答を選んだり、作り出すという、新しい学力観に基づいた内容になっています。また、これからの学習で最も重要となる、論理的思考能力をはかる問題でもあります。

問1 論理的読解・文作成の問題（記述）

まず、設問の条件を必ず守るようにしましょう。解答には、「高校2年生」「呼びかけ」「効果」「限定的」という言葉は必ず入れなければなりません。一つでもない解答は、0点となります。次に、記述すべき内容を、空欄①の前の生徒会役員たちのやり取りから読み取りましょう。解答の作成手順は以下の通りです。空欄のすぐ前に「確かにそうですね」とあります。「そう」の指示内容は、直前のCさんの発言にある「（今年は高校2年生の遅刻が多いが）昨年は1年生の方が多かったので、（遅刻が多いこと）学年は特に関係がない。」ということになりますので、この意見に賛成する発言になるよう、解答を考えなければなりません。そこで、Cさんの発言を前提にして「高校2年生」「呼びかけ」という言葉に注目すると、「高校2年生への呼びかけだけでは効果が限定的だ」という発想につながると考えられます。（別解として、「高校2年生だけに限定的に呼びかけても、効果は薄い」「高校2年生だけに限定的に行うという方法でなく、他学年にも呼びかけた方が効果的だ」という文も同意となり、正解です。）なお、「高校2年生だけに限定的に呼びかけて効果を調べよう」という誤答が多くありましたが、本来の目的は遅刻を減らすことであり、生徒会による実験や調査ではありません。問題の主旨から外れますし、前の二人のやりとりとも完全に矛盾する点からも、誤答であると気付いて下さい。

問2 資料読解の問題（選択）

まず、②はD君が「グラフ1だけでなく2をしっかりと確認して下さい。」と言っているため、グラフ1と2を見て何か分かることがないかを調べます。すると、昨年の高校1年生、今年の高校2年生が最も遅刻していることに気付くはずですよ。さらに、今年の高1、高2、高3の遅刻数を比較すると、グラフ2との因果関係が浮かび上がってきます。「各学年の自転車通学生の割合（高2→高1→高3）」と「各学年の遅刻数

(高2→高1→高3)」が同じだということです。昨年の高1は今年度の高2なので、自転車通学生の多い昨年の1年生の遅刻数が多かったのだろうという推論を立てることも可能です。ここから、正解は オ だと分かります。

次に、③、④はグラフ3、4を見て分かる内容となります。それぞれの選択肢とグラフを見比べて、矛盾のないものを選びましょう。(グラフ2の成績上位者のグラフは、実は、この問題では参考にする必要はありません。必要な情報を得るためにどのデータを活用すべきか、見分ける問題でもありました。) グラフ3からは「朝食を食べる生徒」の成績が良いという事が読み取れます。グラフ4からは、自転車通学生には、「朝食を食べる生徒」と「6時台に起床する生徒」が少ないという事が読み取れます。ここから、③は ウ、④は エ が正解となります。

問3 読解・四字熟語の問題 (記述)

○さんの「ということとは」という発言から、問2の③、④から分かることをまずまとめます。それは、「早く起きて、朝食を食べる生徒は成績が良い」ということです。つまり、○さんは、「早起きして朝食を食べる」ことで、「遅刻しない」という目的以外にも「成績が良くなる」というメリットもあることに気付いたのです。つまり、「一つの行動を改善することで、もともとの目的以外にも成果が得られる」わけです。これを示すことわざは、それほど難しいものではありません。「一石二鳥」ですね。(別解として「一挙兩得」も可。) もちろん、四字熟語ですから、全て漢字で書いて下さい。

問4 論理的読解の問題 (記述)

キャンペーンのスローガン(運動の主張を効果的に要約した文)なのだから、この話し合いを通じて分かった、「全校生徒にして欲しい行動」を書かないと不可です。問4までの流れから考えても、スローガンは、「朝食を食べよう」が最適です。なお、「朝食を食べ、成績を上げよう」などは正解ですが、「澄んだ空気を感ぜよう」「学校へ一番乗りしよう」や、「早朝から部活に励もう」などは、ここまでの話し合いからスローガンの根拠が示せないため、誤答になります。

問5 資料読解の問題 (記述)

この問題も、しっかり設問の条件設定を確認して答えることが大切です。まず、与えられたグラフは、「キャンペーンで変化した結果」であるということ。さらに、「この表を見て、あなたが生徒会役員として次にすべき行動」を考えるということです。つまり、グラフを見ずにあなたの個人的な意見を書くのではないということ。大前提として押さえておきましょう。採点は、グラフ1(キャンペーン前の遅刻数)と問5のグラフを比べて、分かったことを答えている解答(A解答・正答)と、問5のグラフだけを見て分かった事を答えている解答(B解答・△)と、グラフを見ずに、問題と関連のない事を自由に答えている解答(C解答・誤答)に分けて採点しています。以下に例を示しておきますので、自分で勉強する際の参考にして下さい。

A解答 (正答6点)

グラフ1と問5のグラフから分かるのは、「高校1年生の遅刻数が減少していない」という事実です。よって、生徒会役員としては、「高校1年生への働きかけ」が正しい行動となります。しかし、実は、二つのグラフの比較からは、バス通学生や自転車通学生がどれくらい遅刻を減らしているかは分かりません。ですので、「高校1年生の自転車通学生(と府内バス通学生)などと、対象を限定して取り組もうとしている解答は、減点の対象となります。

B解答 (△解答3点)

問5のグラフだけを見て解答した場合、「自転車通学生(と府内バス通学生)」の遅刻数の多さが気になったはず。この点のみを指摘し、改善に取り組もうとしている解答は、キャンペーン前のグラフとの比較という視点が足りないで減点しています。

C解答 (誤答)

「部活の朝活をもっと活発にするようすすめる」「バスの発車時間を遅らせてもらう」など、グラフと全く関係ない取り組みを書いている解答や、「いつもより早く起きる」「自転車通学をやめてバス通学にする」など、生徒会役員としてではなく、個人的な取り組みを書いているものは誤答となります。

③の「古文」の問題は、江戸時代の話本「醒睡笑(せいすいしょう)」からの出題でしたが、現代語で理解できる部分をつなげていけば、話の大筋をつかみ、解答できたと思います。まずは、現代語訳を載せておきます。なお、古文の問題数が減ったことにより、長年出題されていた「歴史的仮名遣い」の問題は、昨年度より出題していません。

【現代語訳】(わかりやすく、言葉を補って訳しています)

昔から、八瀬の寺(青龍寺)には禁酒のおきてがあった。この寺の中に酒を好む僧がいたが、この僧がたくらんで、経箱を作らせ、箱の角をけずって(酒を入れるスペースをつくり)、いかにも上等な感じに(ウルシを)塗らせ、(その経箱の)上に「五部の大乘経」と書き付け、それを(京の都へ)行き来の道具にした。(京で)酒を買って寺に帰ると、寺の門番が「それは何か」と尋ねるので、僧は、「これは五部の大乘経である。京の都に、これを尊び敬い、(お経を聞きたいと)願うお方がおられる。そのために、京通いのたびに持って行くのだ」と答えた。(しかし、)あまりに京へ足しげく通うものだから、門番たちはみな、おかしいと考えた。ある時、使用人の者が、(京から酒の入った)経箱を持ち帰る途中で、酒のおいをかいて、飲みたくて仕方なくなってしまった。そこで、こっそり(酒の入った容器の)口を覚えていただいた。(酒が減ってしまったため、音がしないように)ゆっくりと寺にもどると、《門番》「それは何だ?《使用人》「いつものようにお経でございます」という。《門番》「それならば、少し見てみよう(確認しよう)」と言って、(経箱を)手に取り、握ってみて(言うには)、「ほんとうにお経のようだ。中で、『ごぶごぶ』という音がする。」

問1 主語把握の問題 (選択)

登場人物の行動をしっかりと整理しながら読めば、それほど難しい問題ではなかったと思います。古典では主語を省略した文章が多いですから、問題演習の際には、しっかりと誰の行動かを確認しつつ読み進める練習が効果的です。

問2 内容把握の問題 (選択)

「僧がたくらんだ」内容は、その後書かれています。お経の箱を削って、お酒を隠すスペースを作り、箱の表にはお経の名前を書き付けて、なんと禁酒のお寺にお酒を持ち込もうとしたんですね。

問3 内容把握の問題 (記述)

傍線部の前にある「あまり京かよひのしげければ」が解答の根拠になります。「しげければ」は「繁ければ」という漢字で、「頻繁なので」という意味になります。もちろん、どこへ通っていたかは必ず記述して下さい。

問4 内容把握の問題 (選択)

X は現代語訳の補助「匂いをかいて」が大きなヒントになりますね。Y は、「それは何だ」と問い詰められた時の返答です。門番が調べる時に、「ままこに御経やらん(ほんとうにお経のようだ)」と言ったことも解答の根拠になります。また、この返答から、「箱」は誤答となります。

問5 語句の意味を問う問題 (選択)

それぞれ、周りの文脈から判断してできる問題です。③は傍線部の後の「それ口をあけたまはりぬ」、④も傍線部の後の「手にとり、握りて見」を判断の根拠としましょう。

問6 内容把握の問題 (記述)

これがこの話の「オチ」となるところです。箱を確かめた門番は、箱の中からする「ごぶごぶ」という音(減った酒が揺れて出す音)を聞いて、「本当にお経のようだ。五部(の大乗経)、五部(の大乗経)と鳴っている」と、シャレのきいた答で返したわけです。小咄(こぼなし)や落語の最後には、このようなオチをつける事が多くあります。

問7 本文全体の理解の問題 (選択)

まず、現代語訳を確認して、本文の意味をきちんと理解して下さい。本文と内容一致は、選択肢に間違いの部分がないか、本文中に書かれていない内容がないかを丁寧にチェックしながら解こうにしましょう。

対策と アドバイス

現代文の問題は、設問から、「何を答えれば良いのか」ということを読み取った上で、本文をじっくり読めば必ず解答を得られるようになっていきます。練習の際には、たまたま合った、間違っただけという事で一喜一憂するのではなく、自分でしっかりと根拠を持った解答をし、解答に至る道筋が本当に合っていたのか、しっかりと解説を読んで理解しましょう。時間がかかるかもしれませんが、そうすることで本当の実力がついてきます。また、日頃から読書の機会を持つことで、語彙力を増やし、文のつながりや構造を理解する力=読解力を養うように心がけましょう。来年度も、「漢字・口語文法(品詞の識別)・語句の意味・指示語」など基本的なことを中心に問題を作成する予定です。本校独自の問題については、必ず得点できるように対策を立てることが大切ですが、全体的には、中学校の授業で学習したことを正確に身に付けることを心掛け、問題を一つでも多く解くようにしてください。また、日頃から常に文章に触れることが一番です。読書を通じてしっかりと読解力をつけ、問題演習を通して、本文の中から答えを探し出す訓練を積んでください。また、学校によっては古文への取り組みが少ない学校もあるかも知れませんが、本校の古文の問題は、現代語訳での補助も多く、主に「文脈を判断する」問題になっていますので、日頃から古文に触れておくだけでも十分な対策になります。市販の問題集などを使って、文中の分かる言葉をつなげて、話の大筋をつかまえる練習を積んでおくと良いでしょう。新傾向の問題については、今年と同様に、それほど特異な出題はしませんが、やはり何も対策をせずに本番を迎えるのは不安だと思います。学校などでも同じような問題に取り組む機会があると思いますし、近年では全国の公立高校で同様の問題が多く出題されています。学校の授業での演習の機会を大切に、公立高校の過去問題を調べたりして、地道に練習を重ねてほしいと思います。また、直前入試対策説明会(12月)では、模擬問題(新傾向)の解説を予定しています。学校で実際の問題に触れてみるのも貴重な経験になりますので、是非足を運んでください。

国語力は、全ての教科の基礎と言われています。国語の力が伸びれば、他の教科にも必ず良い影響をもたらすので、しっかりと勉強して下さい。